

スポーツ庁委託事業

「令和3年度スポーツキャリアサポート支援事業」における
スポーツキャリアサポートコンソーシアムの運営

事業実施報告書

株式会社フューチャー・デザイン・ラボ

FUTURE Design Lab
www.futuredesignlab.jp

目次

I. 本年度の事業目的	P4
II. 事業計画と実績	P6
(1) 総会および運営委員会の開催に関する業務	
1) 計画	P6
2) 実績	
i) 総会	P7
ii) 運営委員会	
ア) 開催実績	P8
イ) 決定事項	P9
(2) 会員団体の拡大・連携推進	P10
1) 計画	
2) 実績	
i) 会員団体の拡大	P10
ii) 会員団体の連携推進	P11
(3) プロジェクトの推進	P12
①アスリートキャリアコーディネーターの育成と活用	
1) 計画	P12
2) 実績	
i) 育成実績	P12
ii) 活用実績	P19
ア) S C S C キャリアセンター設置方針発表	P19
イ) A C C 限定コミュニティの設置	P19
ウ) A C C 認定ロゴの制定	P22
②アスリートに対するキャリア支援に関するケーススタディの実施	P22
1) 計画	P22
2) 実績	P22
③会員団体の連携・共同によるプロジェクトの推進	P24
【プロジェクト I】全国エリアでのインターンシップの実践	P24
1) 計画・2) 実績	
【プロジェクト II】企業とのマッチング実践	P26
1) 計画・2) 実績	
【プロジェクト III】アワードの創設	P27
1) 計画・2) 実績	

(4) 情報発信コンテンツの充実 P28
1) 計画 P28
2) 実績 P28
(5) 今後に向けた検討 P30
III. Athlete Career Challenge カンファレンス 2022 の開催 P31
1. カンファレンスの概要 P31
2. 集客状況および満足度 P34
3. カンファレンスのまとめと今後の課題 P36
IV. まとめ P37
V. 事業実施体制 P39

I.本年度の事業目的

アスリートのキャリア形成に関わるステークホルダーは複雑多岐にわたる中、「関係団体が連携し、アスリートがスポーツキャリア及びライフキャリアを両立させるためのシステムを構築し、支援を提供する（参照：SCSC 会則）」ことを目的として、コンソーシアムが存在する。

現役引退後のキャリアパスについてアスリート自身も不安を抱えながらも、現役時代から計画的に準備する者は少なく、競技団体によるサポートも不十分な状況であり、スポーツ関連団体（JSC、JOC 等）による支援も個別に行われている状況である。このような状況を鑑みて、アスリートが安心してスポーツに専念できるよう、国はアスリートのキャリア形成を一元的に支援するシステムを構築することを目的としてコンソーシアムを運営してきたが、未だ解決されない課題が残っている。

一方、産業界は、終身雇用の崩壊、副業の解禁、テレワークの推進などこれまでの日本の雇用慣行の歴史的転換点を迎え、組織による個人のキャリア開発から、個人が自ら主体的且つ戦略的にキャリア開発を行うことが必要とされる時代となってきた。

「一所懸命」、「二兎負うものは一兎も得ず」という一つのことに専心することを是とした日本的な価値観のもとで、ビジネス界においても一つの会社、仕事に専念することがこれまでは是であり、スポーツ界においても競技活動に専念し結果をだすことが求められてきた。しかし前述のような転換期の中でアスリートが、日本が直面する社会変化に応じたキャリア形成の一つのモデルとしてデュアルキャリア、キャリアトランスフォーメーションが実現できることを示すことは、スポーツ界のみならず日本全体の社会課題の一つであるキャリア形成に大きなインパクトを与えるものである。

そしてその実現には、産学官の戦略的連携が必要不可欠である。

アスリートが引退後のキャリアにおいてもスポーツで培った能力を発揮し活躍することは、アスリート個人の人生の充実のみならず、社会資源としてのアスリートの人材価値を社会に還元することにも繋がる。また、アスリートの競技活動内外の継続的な活躍は、スポーツの価値を高め、スポーツ参画人口の拡大、スポーツ産業の発展に貢献する。スポーツ産業の拡大は、競技団体の経営基盤を向上させ、競技力向上にも大きく貢献することとなり、好循環が生まれる。

スポーツによって育成された人材のサステナブルな活躍は、スポーツ立国戦略が目指す新たなスポーツ文化を体現する。ひいてはスポーツ SDGs に示される「スポーツのチカラで世界を変え、未来をつくる」人材を育成することに繋がる。人々の健康やウェルビーイング、社会課題の解決に貢献するスポーツ文化醸成に繋がる好循環を作るためには、まずはアスリート自身のキャリア形成を効果的に支援することが必要不可欠である。

アスリートがそれぞれの競技で行っている限界への挑戦が、競技を離れた後にも自らのキャリアへの挑戦へと転換され、自己実現を成し、社会へ貢献し続けることが、日本社会の成長、希望につながるものと考える。

以下、本年度のスポーツ庁公募要領の記載に基づき、事業を展開する。

スポーツ庁令和3年度「スポーツキャリアサポート支援事業」公募要領より（一部抜粋）

スポーツキャリアサポートコンソーシアムの運営（（1）～（5））

（1）総会及び運営委員会の開催に関する業務

総会（1回以上）及び運営委員会（3回以上）の開催のために必要な事務を処理する。

（2）会員団体の拡大・連携推進

アスリートのキャリア形成支援に係る関係団体への啓発等を通じて、本コンソーシアム会員の拡大を図る。また、会員同士の交流を促進する機会を提供する。

（3）プロジェクトの推進

①アスリートキャリアコーディネーターの育成・活用

有識者等の意見を取り入れつつ、令和2年度に開発したACC育成プログラムの成果物を踏まえ、その内容の改善や充実を図りながらACCを育成する。

ACCの活用を推進するため、活動の成果を報告することを条件として、競技団体等からのキャリア支援の要望を受け付け、それに対しACCを保有する会員企業を紹介することで活動事例の創出・収集を行う。

②アスリートに対するキャリア支援に関するケーススタディの実施

会員企業やACCのアスリートのキャリア支援の活動事例を共有する場を設け、ケーススタディを行うことで、有効なアスリートのキャリア支援の研究を行う。

③会員団体の連携・共同によるプロジェクトの推進（1件以上）

（4）情報発信コンテンツの充実

専用ウェブサイトやSNS等を活用し、スポーツキャリアに関する情報の発信を行う。効果的な情報発信方法について検討を行い、専用ウェブサイト等のコンテンツの充実を図る。

アスリートの人材価値を社会に向け発信するためのイベント等を開催する。

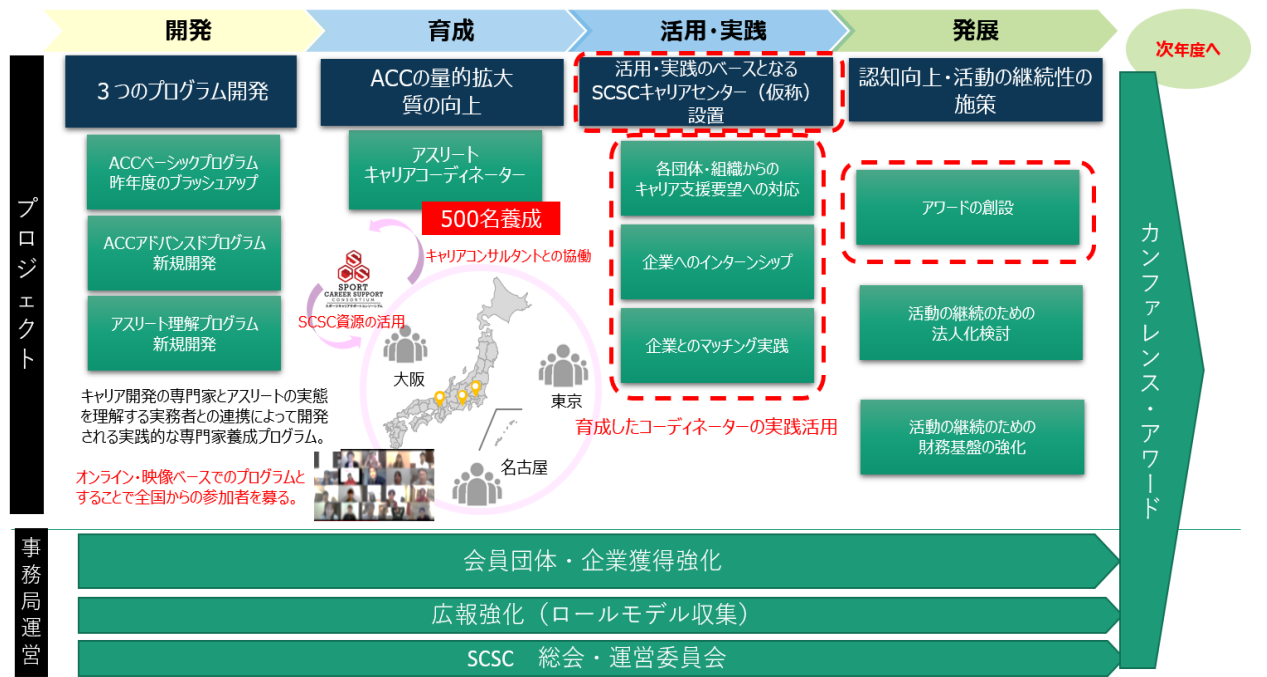
（5）今後に向けた検討

これまでのSCSCの成果を踏まえ、今後のアスリートキャリア支援の在り方およびSCSCの今後の役割について検討を行い、次年度以降に実施すべき事業や政策を提言する。

II.事業計画と実績

本事業の目的を達成するため、第1回運営委員会にて以下の事業計画が検討、承認され、本年度の事業を開始した。

【令和3年度 事業計画全体マップ】



以下、項目ごとに計画と実績を記す。

(1) 総会及び運営委員会の開催に関する業務

1) 計画

下記スケジュールでの開催を計画。

7月上旬	2021年度第1回総会
7月上旬	2021年度第1回運営委員会
9月上旬	2021年度第2回運営委員会
11月上旬	2021年度第3回運営委員会
1月上旬	2021年度第4回運営委員会

2) 実績

i) 総会 実績

総会は、毎年一回開催することが SCSC 会則によって定められており、本年度も事業の開始に合わせて開催した。

日付	会議	議事次第	参加数
7/16	令和3年度SCSC総会	令和3年度 運営委員の選任について 令和3年度の事業方針についての説明 各団体の自己紹介（各30秒程度）	26名

総会にて令和3年度運営委員が以下の通り決定し、本年度の事業が開始された。

運営委員の任期は、令和3年度7月16日から令和4年度の総会の終結の時までとなる。

なお、公益財団法人日本パラスポーツ協会 常務理事の山田 登志夫氏の任期中の退任に伴い後任として藤原 正樹氏の就任を第4回運営委員会で決定した。

令和3年度スポーツキャリアサポートコンソーシアム運営委員（50音順）

氏名	所属組織
浅川 伸	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 専務理事
伊地知 和義	株式会社スポーツフィールド 取締役副社長
葛西 順一	公益社団法人全国大学体育連合 専務理事
木村 昌彦	公益財団法人全日本柔道連盟 指導者養成委員会委員長
久木留 毅	独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センター センター長
高橋 義雄※	国立大学法人筑波大学体育系 准教授
田口 禎則	一般社団法人日本トップリーグ連携機構 理事・事務局長
竹原 啓二	株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長
立花 泰則	公益財団法人日本体操協会 情報医科学アンチ・ドーピング委員会 委員長
田中 研之輔※	法政大学キャリアデザイン学部 教授
藤田 真也※	特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会 理事長
星野 一朗	公益財団法人日本オリンピック委員会 専務理事
室伏 由佳※	順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授
森岡 裕策	公益財団法人日本スポーツ協会 専務理事
森下 尚紀	株式会社 MPandC 代表取締役社長
山田 登志夫	公益財団法人日本パラスポーツ協会 常務理事
藤原 正樹（後任）	公益財団法人日本パラスポーツ協会 常務理事

*学識経験者として、本会の運営にかかわる。

ii) 運営委員会 実績

(ア) 運営委員会開催実績

運営委員会は、本会の意思決定機関として位置づけられており、本会の運営に関する事項を審議する場である。本年度は第1回運営委員会にて7月から1月まで隔月での開催日程を決定、広報しスケジュール通り4回実施した。3月には書面で追加開催を行い年間計5回の開催となった。

日付	会議	議事次第	参加数
7/16	第1回運営委員会	決議事項 第1議案：役員の選任について 第2議案：会則の改正について 第3議案：コンソーシアム新規入会希望団体の審議について	14名
9/17	第2回運営委員会	決議事項 会則の改正について （寄附金等取扱規程の追加 検討事項 1) ACC育成プログラムの進捗状況について ・ACCベーシックプログラム ・アドバンスドプログラム ・アスリート理解プログラム 2) アスリートキャリアチャレンジプログラムの件 報告事項 1) 会員獲得状況 2) SCSCサロン実施報告	13名
11/19	第3回運営委員会	決議事項 1) アスリートキャリアコーディネーターの認定について 報告事項 1) ACC育成プログラムの進捗状況について ・ACCベーシックプログラム第1期完了報告および第2期経過報告 ・アドバンスドプログラム 申し込み状況報告 ・アスリート理解プログラム 第1期完了報告および第2期申し込み状況報告 2) アスリートライフキャリアデザインプログラムの件 3) 第2回SCSCサロンについて 4) 新規会員獲得状況について	13名

		5) SCSC 口座開設完了報告 6) JOCセミナー(特別免許状制度セミナー)でのSCSC告知報告	
1/14	第4回運営委員会	決議事項 1) SCSC副会長の後任について 検討・確認事項 1) 3月12日開催 カンファレンスについて ・プログラム構成について ・登壇予定候補について ・SCSCの役割・方向性について ・イベント運営委託先について 報告事項 1) ACC育成プログラムの結果報告 ・ACCベーシックプログラム第1期、第2期完了報告 ・アドバンスドプログラム 完了報告 ・アスリート理解プログラム 第1期、第2期完了報告 2) アスリートライフキャリアデザインプログラムの件 ・参加状況 ・キャリアデザインコース・ビジネス実践コースへの参加状況 3) 新規会員獲得状況について	13名
3/17	第5回運営委員会	Athlete Career Challengeカンファレンス実施報告他	16名

(イ) 決定事項

① 役員を選出

第1回運営委員会にて、以下の通り、役員が選出された。

会長 高橋 義雄
 副会長 久木留 毅
 星野 一郎
 森岡 裕策
 山田 登志夫

第4回運営委員会にて、山田 登志夫氏の後任として藤田 正樹氏が選出された。

② 会則の改正について

第1回および第2回運営委員会にて、会則が改正された。

最新版は「令和3年10月1日改正」となっている。

参考資料 1) -1 SCSC 会則 令和3年10月1日改正版、参考資料 1) -2 寄附金等取扱規程

(2) 会員団体の拡大・連携推進

1) 計 画

会員の拡大、連携促進のために以下、段階的に進める。

- ① 会員区分および区分別入会メリットの整理
- ② 会員獲得に向けたツール作成および営業ターゲットの選定
- ③ **新規加入 50 団体 トータル 100 団体達成を目指す。**
- ④ ターゲットに応じた会員開拓プロジェクト組織を設置する。
- ⑤ SCSC のロゴ使用規定等を定め、加入団体、企業への設置を進める。
- ⑥ SCSC サロンを設置し、会員間の情報共有・連携強化を図る。

2) 実 績

i) 会員団体の拡大 実績

本年度も昨年に引き続き会員団体の拡大と連携推進を目的に活動を行った。その結果、新規に 15 団体が入会した。また会員団体の事由により 1 団体が退会となった。本年度の会員数は、合計 64 団体となった。この 2 年間で加入団体数は 2 倍を超えたが、引き続き競技団体の加入促進が課題となっている。

実績) 期初 50 団体 ⇒ 期末 64 団体へ (3月18日時点)
(入会 15 団体 退会 (組織活動終了) 1 団体)

以下、令和 3 年度の新規入会団体一覧 (2021年7月以降～)

入会承認月	入会団体名
7月	一般社団法人 全日本フルコンタクト空手コミッション
	株式会社エンファクトリー
	特定非営利活動法人 キャリアカウンセリング協会
	株式会社リアセック
8月	筑波大学アスレチックデパートメント
	一般社団法人 日本チャレンジゴルフツアー協会
9月	S. H. N株式会社

10月	株式会社旭倉庫
	公益財団法人 日本スポーツ産業学会
11月	静岡ブルーレヴズ株式会社
12月	公益財団法人 日本テニス協会
1月	株式会社ORGO
2月	第一学院高等学校／株式会社ウィザス
	学校法人柏専学院 新潟産業大学
	株式会社アーシャルデザイン

※SCSC会員一覧は、*参考資料2) SCSC会員一覧2022年3月末現在 参照

本年度、新規入会団体には入会時にSCSCの広報活動のためのレターを配布した。

※参考資料3) スポーツキャリアサポートコンソーシアム会員の広報活動に関するお願い 参照

また、第1回運営委員会では、新たな会員区分としてACC会員を設定し、ACC認定者がSCSC会員として登録できるように会則の改正を行った。

ii) 会員団体の連携推進 実績

本年度、会員間の情報共有・連携強化を図ることを目的に新たな取り組みとしてSCSCサロンをWEB上で2回開催した。各組織、団体での取り組みを共有することがSCSC入会のメリットとなることをあらためて認識するとともに実際に新規会員の募集にも効果があった。

① SCSC サロンの開催

【第1回】

実施日時	2021年9月14日17時～18時30分
実施場所	ZOOM ミーティング
登壇者	一般社団法人日本トップリーグ連携機構 事務局長 田口 禎則 氏
会員参加	16名

【第2回】

実施日時	2021年10月29日17時～18時30分
実施場所	ZOOM ミーティング
登壇者	日本フェンシング協会 青木 雄介 氏 (東京オリンピック フェンシング日本代表監督)
会員参加	8名 入会検討中1名 (日本テニス協会 → のちに入会決定)

(3)プロジェクトの推進

①アスリートキャリアコーディネーターの育成・活用

1) 計 画

【育 成】

令和2年度に開発した ACC 育成プログラム（ベーシックプログラム）の成果物を踏まえターゲットごとに3つのプログラムを開発・実施する。

- | | |
|------------------------|------------------|
| ・プログラム①ACC ベーシックプログラム | 育成規模 100 名程度 |
| ・プログラム②ACC アドバンスドプログラム | 育成規模 100 名程度 |
| ・プログラム③アスリート理解プログラム | 育成規模 300 名程度 |
| | 合計 500 名の ACC 育成 |

【活 用】

アスリートキャリアコーディネーターの活用・実践のベースとして SCSC キャリアセンター（仮称）を設置する。

- ・ ACC 活動事例の創出・収集

加盟団体・企業からキャリア支援の要望を収集（2～3 案件）

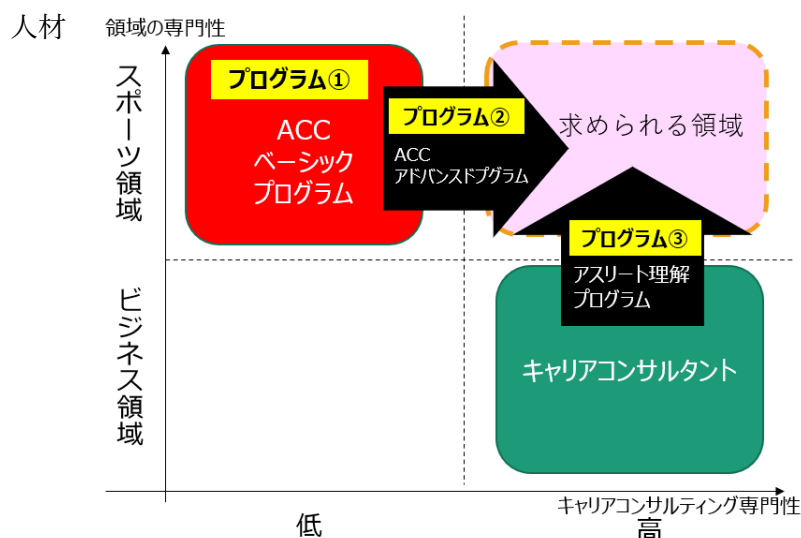
SCSC キャリアセンター（仮称）に登録した ACC の中で対応希望者を募り各団体の要望に対応する。

2) ー i) 育 成 実 績

計画に基づき、以下の3つのプログラムを開発、実施した。

- ① アスリートキャリアコーディネーターの位置づけをアスリートのメンターの存在としてスポーツ領域人材の育成を図るプログラム（ACC ベーシック PRG）*昨年度の改訂版
- ② ACC ベーシック修了者を中心にアスリートのキャリアコンサルティングを行えるようになるための実践的プログラム（ACC アドバンスド PRG）*本年度新設
- ③ キャリアコンサルタントを中心とした経験豊富な層にアスリート領域の知見を学んでもらうプログラム。（アスリート理解 PRG）*本年度新設

◆各プログラムの位置づけと受講対象層



本年度、ベーシックプログラムは、3日間のプログラムを2日程、アドバンスドプログラムは、3日間のプログラムを1日程、アスリート理解プログラムは1日のプログラムを2日程実施。受講者数は計画500名の2倍以上の1,000名を超える規模となった。課題提出者も644名となり、このテーマへの関心の高さがうかがえる結果となった。本年度も参加者はWEB (ZOOM) での受講形式としたため日本国内に留まらず、海外からの参加者も受け入れることができ、多くの参加者にプログラムを提供することができた。

・プログラム①ACC ベーシックプログラム	受講者	165名	課題提出	128名
・プログラム②ACC アドバンスドプログラム	受講者	116名	課題提出	94名
・プログラム③アスリート理解プログラム	受講者	760名	課題提出	422名
	受講者計	1,041名		

本年度は、アドバンスドプログラムおよびアスリート理解プログラムを受講し、かつ修了課題の審査を通過した受講者をアスリートキャリアコーディネーターとして認定を行った。認定期間は5年間とし本年度の認定者の有効期間は2027年3月末までとしている。

★本年度のアスリートキャリアコーディネーター認定実績 計 492名

認定対象者の2つの属性

タイプA) アスリート系人材

ベーシックプログラムを修了かつアドバンスドプログラムを修了し、認定課題の審査を経てACCとして認定された人 83名

タイプB) キャリアコンサルタント系人材

国家資格であるキャリアコンサルタントまたはキャリアコンサルティング技能士の有資格者でアスリート理解プログラムを受講しACCとして認定された人 409名

各プログラムの概要、実施実績については下記の通り。

*各プログラムの受講者属性および受講アンケート集計については、参考資料4) アスリート
キャリアコーディネーター育成プログラム受講者属性および受講後アンケート結果 参照

■ベーシックプログラム概要

Day1		
①	環境理解	アスリートの置かれている立場の理解 アスリートのキャリアマップ等を示し、アスリートのセカンドキャリアが指導者等のスポーツ関連の道だけでなく、幅広い選択肢があることの理解
②	ACC の理解	ACC の役割・活動範囲・職業倫理 アスリートファースト（アスリートの幸せのために）
③	キャリア理論	プロティアンキャリア キャリア資本の蓄積
④	アスリート 特有の課題	アスリートのキャリア支援を行っていく上での課題
⑤	次回までの課題	（自分の社会人基礎力テストの結果の読み込み）

Day2		
①	アスリート理解	Day1 の宿題：自身のテスト結果をみながら診断テストのツールとしての理解を深める
②	社会人基礎力の 概念理解	社会人基礎力の概念理解
③	ケーススタディ	アスリートのテストのサンプリングデータおよびプロフィールデータ例を題材に 支援計画を考える。（グループ議論）
④	解説	ケース解説

Day3		
①	対話の基本スキル	対話の基本スキル「聴くこと」 視点の違いによるギャップの理解 (アスリート視点と ACC 視点)
②	「対話」実践ロープレ	Day2 の事例を基に支援面談のロープレを実施 グループごとにトレーナーを配置し、面談内容についてアドバイスを実施
③	まとめ	Day 3 を通した学びの整理 < 1 対 1 でのキャリア支援の基本 >
④	全体まとめ	Basic プログラムのまとめ

実績) ベーシックプログラム実施状況

	第 1 期	第 2 期
実施日時	Day1 2021 年 10 月 2 日 (土) 18:00~21:30 Day2 2021 年 10 月 9 日 (土) 18:00~21:30 Day3 2021 年 10 月 16 日 (土) 18:00~21:30	Day1 2021 年 11 月 1 日 (月) 18:00~21:30 Day2 2021 年 11 月 8 日 (月) 18:00~21:30 Day3 2021 年 10 月 15 日 (月) 18:00~21:30
受講者数	65 名 (58 名受講完了)	100 名 (88 名受講完了)
課題提出者	53 名	75 名
修了証発行	53 名	75 名

■アドバンスドプログラム概要

Day1		
①	「Can」視点の 職業探索を体感する	ケーススタディ（事前個人ワーク）
		ケーススタディ（グループワーク）
		全体共有 補足説
②	「Will」を探る	参加者自身のWillを探る （個人ワーク→グループワーク）
		全体共有 補足説明
③	アスリートの 取り組みを ビジネスシーン に'翻訳'する	実在アスリートにあてはめる （個人ワーク→グループワーク）
		全体共有補足説明
④	まとめ	まとめ

Day2		
①	コミュニティ形成	Teamlancer 活用
②	企業人事・人材開発責任者 との対話	源田 泰之 （ソフトバンク 人事総務統括 人事本部 副本部長） 「ソフトバンク流、元アスリート社員の人材開発」
		大浦 征也 （パーソルキャリア株式会社執行役員） 「元アスリートの人材開発支援」
④	まとめ	各社人事から今求められる人材とは。 アスリートに期待するポイント

Day 3

①	集団への ファシリテーション	自分の所属するチーム・団体等への啓蒙活動
②	ネットワーク形成 と連携	企業人事・経営者とのネットワークの作り方 人材会社との連携の方法
③	まとめ	自分自身のキャリアステップ 継続学習の重要性
④	最終課題	課題発表

実績) アドバンスドプログラム実施状況

アドバンスド プログラム		内 訳		
		昨年受講者 (昨年の Basic プログラム受講者)	今期 Basic プログラム 第 1 期受講者	今期 Basic プログラム 第 2 期受講者
受講対象者	230 名	102 名	53 名	75 名
申 込 (受講者)	116 名	34 名	38 名	44 名
日程	3 日間のプログラム 2021 年 11 月 27 日 (土)・12 月 6 日 (月)・12 月 13 日 (月)			
修了者	100 名	26 名	36 名	38 名
課題提出者	94 名	24 名	34 名	36 名
認定証発行	83 名	22 名	31 名	30 名

* 認定証発行人数 (アスリート理解プログラムで認定をすでに取得している 9 名を除く)

■アスリート理解プログラム概要

アスリート理解プログラム		
* 参加対象： 実務経験2年以上、国家資格キャリアコンサルタント取得者およびキャリアコンサルティング技能士有資格者		
①	環境理解	アスリートの置かれている立場の理解 アスリートのキャリアマップ等を示し、アスリートのセカンドキャリアが指導者等のスポーツ関連の道だけでなく、幅広い選択肢があることを理解してもらう。
②	ACC の理解	ACC の役割・活動範囲・職業倫理 アスリートファースト（アスリートの幸せのために）
③	アスリート 特有の課題	アスリートのキャリア支援を行っていく上での課題 ⇒ ケース提示 ⇒ 支援する際のポイント
④	アスリートの プロモーション手 法	アスリートの自己PR（言語化）について

実績) アスリート理解プログラム実施状況

	第1期	第2期
実施日時	2021年10月23日(土)	2021年11月22日(月)
受講者数	358名(349名)	411名
課題提出者	218名	204名
認定者	211名	198名

2) -ii 活用実績

ア) SCSC キャリアセンターの設置方針の発表

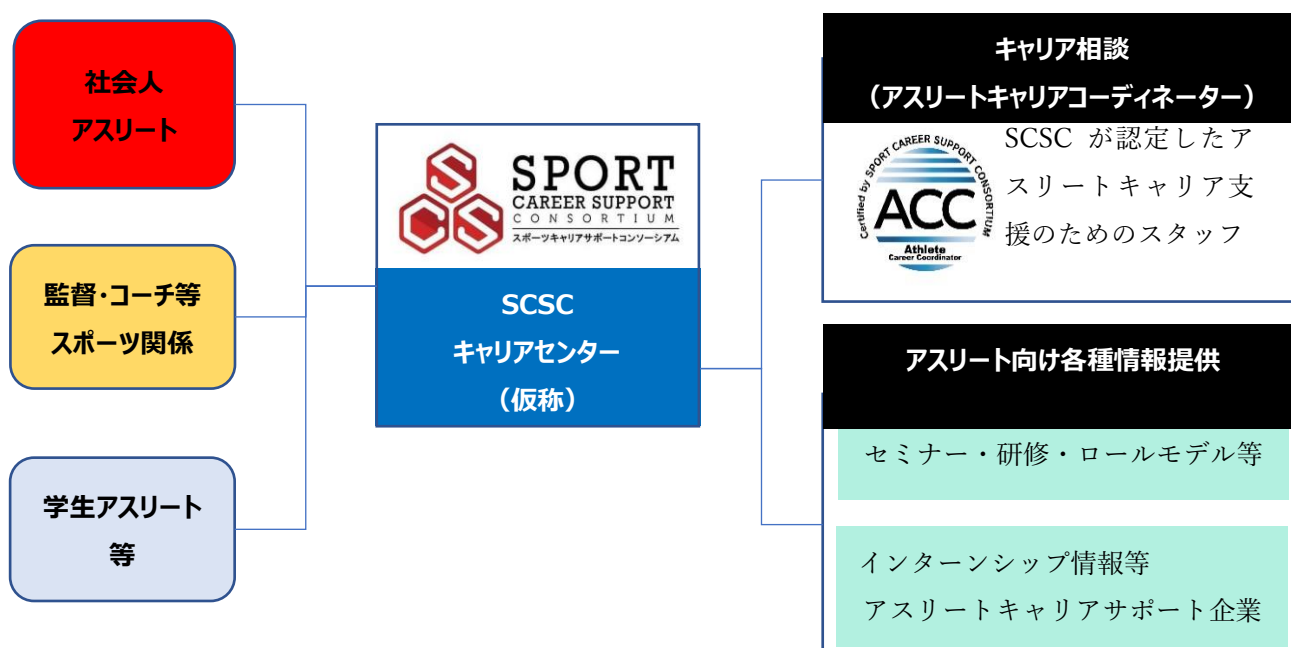
本年度キャリアセンターの設置については、関係各所との議論を重ね、横断機能として SCSC キャリアセンター（仮称）設立を令和4年3月12日実施の Athlete Career Challenge カンファレンス 2022 にて方針発表する合意形成を取り付けるところまで漕ぎつくことができた。

※参考資料5) プレス配布用資料 参照

アスリートのキャリア形成支援の実現に向けてこの SCSC キャリアセンターに本年度育成・認定した ACC の登録を進め、実運用に乗せることが来年度の大きなテーマの一つとなる。

このセンターで加盟団体や企業からのキャリア支援の要望を受け付け、対応していくこととなる。

【SCSC キャリアセンター】



イ) ACC 限定のコミュニティの設置

また、ACC の活動事例の創出・収集を目的として本年度、ACC が継続的かつ自立的に協力しあいながら活動できる場として ACC 育成プログラムの受講者および講師等関係者のみが参加できるコミュニティ (Teamlancer) を開設した。

コロナ禍の状況下でもあり受講者がリアルに交流することができず、ともするとWEBでのプログラム受講時のみの交流となってしまうが、ACCの人的ネットワークを継続的なものとするためにACC育成プログラム参加時に登録を勧めた。

登録ユーザー462名（うち稼働中360名 3月20日時点）となっており、かかわる競技種目、地域、立場などは異なるが、アスリートのキャリアを支えようという思いをもった人達のネットワークの礎を築くことができた。

ACC 受講者・講師等の限定コミュニティ画面例

The screenshot displays the ACC community website. At the top, there is a navigation bar with the 'SPORT' logo and menu items: 'フィード', 'チーム', 'プロジェクト', 'イベント', 'ユーザー', 'コラム'. The main content area is dominated by a large banner for 'Athlete Career Challenge 2022'. The banner includes the text 'Athlete Career Challenge 2022' and 'アスリートのCX (キャリアトランスフォーメーション)'. It also features a date '2022 3/12 [土]' and a time '13:00~16:00'. Below the banner, there is a section for 'ユーザー' (Users) with a search icon and the text 'こんなメンバーがいます。つながりを見つけてみよう!'. This section displays a row of member avatars with names: 田辺 義晴, 末松 康男, 日浦 敬子, カワミトシタカ, 菅井 美千恵, 米原 博章, 田崎 勝史, 小泉 直子. Below this is a section for 'フィード' (Feed) with a search icon and the text '最新のタイムラインが表示されます。近況や仕事状況など共有・告知しよう!'. The bottom of the page shows a search bar with the text 'チーム: 学生アスリート...

下記のようなチームが自主的に立ち上がり ACC 間での情報共有・交流の場として機能し始めている。これらの接点を通じて ACC の活動事例の収集の基盤を作ることができた。

(自主設定チーム例とチームへの登録人数)

- ・ACC 定期交流の場 51名
- ・学生アスリートのキャリアサポート 82名
- ・2021 ACC Advanced 振り返り/共有/ネットワーク グループ 65名

+ゲームを作成する

メンバー募集中



2021 ACC Advance 振り返り/…
2021 ACC Advanceコースに参加した方で、半年にコースで学んだ内容の振り返り

APR メンバー 65 タイムライン 49 1

メンバー募集中



ACC 定期交流の場(リアル&オ…
ACCメンバー、アスリート支援従事者、キャリア支援従事者、現役・引退アスリート

APR メンバー 51 タイムライン 20 0

メンバー募集中



学生アスリートのキャリアサポー…
学生アスリートのキャリアサポート環境について何か取り組んでいる、取り組み

APR メンバー 82 タイムライン 53 2

メンバー募集中



ACC育成プログラム運営チ…
2021年度アスリートキャリアコーディネーター育成プログラムの運営チームで

APR メンバー 5 タイムライン 4 2

メンバー募集中



チームサッカー!(フットサル・ピ…
アスリートのキャリア支援を目的とした人的ネットワーク(社会関係資本)の構築

APR メンバー 15 タイムライン 4 1

メンバー募集中



「チーム北の国」北海道からアス…
北海道をベースとしたアスリートのキャリア支援

APR メンバー 4 タイムライン 1 2

メンバー募集中



チーム陸上競技!(マラソン・ラン…
まずはコミュニティづくりをしてみようと思いをいたしました!何か動きを検討して

APR メンバー 21 タイムライン 13 2

メンバー募集中



R3_ACC_アドバンスドプログラ…
令和3年度のアドバンスドプログラムは、令和2年度のベーシックプログラム修了

APR メンバー 46 タイムライン 6 5

メンバー募集中



R3_ACC_アスリート理解プログ…
令和3年度アスリート理解プログラム第1期を受講いただいた方々のチームで

APR メンバー 35 タイムライン 5 6

メンバー募集中



R3_ACC_Basicプログラム 第…
令和3年度アスリートキャリアコーディネーター育成プログラムベーシックプログラム

APR メンバー 37 タイムライン 13 4

メンバー募集中



R3_ACC_アスリート理解プログ…
令和3年度ACC育成 アスリート理解プログラム第2期受講者のチームです、研

APR メンバー 34 タイムライン 3 7

メンバー募集中



R3_ACC_Basicプログラム 第…
令和3年度ACC育成プログラム ベーシックプログラム 第2期受講者のチーム

APR メンバー 29 タイムライン 7 11

ウ) ACC 認定ロゴマークの制定

- ・ACC の認定ロゴマークについても作成し、商標登録申請を行った（登録申請中）。
認定者へ ACC としての意識付けを行う。
ACC 認定ロゴマークについては今後使用規定を定め、積極的に活用していくことで ACC および SCSC 自体の認知向上を図っていく。

【商標登録申請中】



②アスリートに対するキャリア支援に関するケーススタディの実施

1) 計 画

- ・会員企業からアスリートに対するキャリア支援事例を収集
- ・本年度広報強化施策のメインコンテンツであるアスリートのロールモデル取材を通じた事例収集
- ・会員連携の場として本年度設置する SCSC サロンのセミナーテーマの一つとして位置づけ、アスリートに講師（話者）として登壇してもらう。
- ・これらの企業サイド・アスリートの取材を通して収集した事例からアスリートにとって有効なキャリア支援について研究を行う。

2) 実 績

アスリートに対するキャリア支援事例収集については、2021 年 12 月 18 日に開催したアスリ

ートライフキャリアデザインセミナーに登壇いただいた企業（ソニーグループ株式会社、au じぶん銀行株式会社）および 2022 年 3 月 12 日に開催した AthleteCareer Challenge カンファレンス 2022 に登壇いただいた企業（ソフトバンク株式会社、両備ホールディングス株式会社）にアスリート人材についての可能性、キャリア支援事例等を発表いただく形で実施した。

また、SCSC サロン第 1 回では、トップリーグ連携機構が実施した女性アスリートのアンケート調査に基づき、女性アスリートのキャリア課題を会員間で共有し、第 2 回では、フェンシング協会の青木氏に講師を依頼し、フェンシング協会が取り組んできた改革、アスリートのキャリア自立に向けた取り組みについて具体的な事例の共有を行うことができた。特に「アスリートフューチャーファースト」というコンセプトは、SCSC の活動理念にも通ずるところがあり、広く普及すべき概念と考える。

ロールモデル取材を通じての事例収集は、十分には進まなかったが、下記の通り多くのアスリートに SCSC の活動に参加していただき、それぞれの経験に基づきアスリートのキャリア形成における課題および提言を発信してもらうことができた。

アスリート理解プログラムに登壇いただいたアスリート

- ・元プロ野球選手 ダースローマシュ匡 氏
- ・現役エアロビック競技日本代表 上田 真穂 氏
- ・現役フェンシング選手 徳南 堅太 氏
- ・現役フェンシング選手 溝口 礼菜 氏

Athlete Career Challenge カンファレンス 2022 に登壇いただいたアスリート

- ・元 J リーガー 外池 大亮 氏
- ・元ラグビー日本代表 五郎丸 歩 氏
- ・元プロ野球選手 久古 健太郎 氏
- ・元女子ホッケー日本代表 小野 真由美 氏
- ・現役パラ陸上選手 中西 麻耶 氏

アスリートのキャリア形成については競技ごとに環境が大きく異なることや競技の枠を超えた交流の少なさもあらためて浮き彫りになった。一方でキャリアに関してアスリートが抱える課題は共通する点も多く、競技の枠を超えた情報共有等の必要性も強く感じられた。

アスリートにとって選手時代に形成される能力は、競技種目、ポジション、チーム内での役割等によって異なるものと考えられる。そしてそれらの貴重なキャリア資産をアスリートの世界以外でも理解できるコトバに「言語化」すること、「翻訳」することがキーとなる。

アスリートキャリアコーディネーターの重要な役割の一つがこのアスリートのキャリア資産の言語化、翻訳のサポートをすることだと考えている。この部分については継続研究のテーマとして課題が残った。

③会員団体の連携・共同によるプロジェクトの推進

【プロジェクト I】 全国エリアでのインターンシップの実践

1) 計 画

アスリートと企業のマッチング事例創出のためにインターンシップを実施。

アスリートのインターンシップ先を決定するための面談は、当事業で育成しているアスリートキャリアコーディネーターに担当してもらう。

(アスリートキャリアコーディネーターの実践の場として活用)

受け入れ企業開拓のために地方にサテライトスタッフを配置し、首都圏だけでなく地方都市での受け入れ先開拓も行う。

2) 実 績

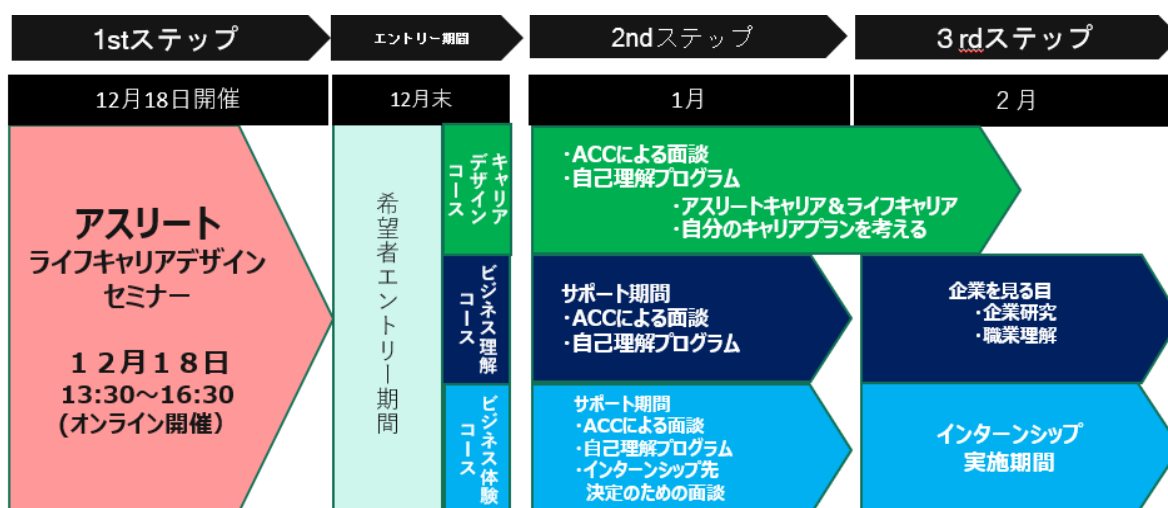
アスリートライフキャリアデザインプログラムとして下記3つのステップで構成する企画を実施。

ステップ1) アスリート向けキャリアセミナー

⇒アスリートライフキャリアデザインセミナー 12月18日実施

ステップ2) 自己理解プログラム (適性検査およびACCとのキャリア面談)

ステップ3) ビジネス理解・体験プログラム (インターンシップへの参加)



このステップ3)のインターンシップ受け入れ企業として下記16社を開拓した。

大阪、福岡に協カスタッフ(サテライトスタッフ)を配置し、関西、九州でのアスリートの受け入れ可能企業も開拓することができたが、アスリートでステップ3まで進む希望者がでず、イン

ターンシップは本年度、実施を見送ることとなった。

ステップ1参加者) 104名 (うちアスリート16名)
ステップ2参加者) 適性検査受験 4名 → ACC面談 4名
ステップ3参加者) 0名

キャリアをテーマに現役アスリートを集客することの難しさを実感する結果となった。
また、競技によってオフシーズンが異なることなどからインターンを受け入れる側の日程設定や期間、受け入れ態勢、告知方法などについても工夫し、アスリートが参加しやすい企画に改善する必要がある。また普及に向けてアスリートの個人での自主的な応募だけでなく、チーム単位など組織としてこの課題に取り組むモデルケースを作ることも有効と考える。

インターン受け入れ予定企業一覧

No	社名	区分	エリア
1	パーソルキャリア株式会社	SCSC 会員	首都圏
2	au じぶん銀行株式会社	SCSC 会員	全国
3	S.H.N 株式会社	SCSC 会員	首都圏
4	バリュエンスホールディングス株式会社	SCSC 会員	首都圏
5	株式会社エンファクトリー	SCSC 会員	首都圏
6	アーティクルキャリア 株式会社トーコー		埼玉
7	株式会社 LibWork		熊本 (九州エリア)
8	株式会社シグナル		関西エリア (大阪)
9	株式会社ナカムラロジスティクス		首都圏
10	太陽ビルマネジメント株式会社		大阪・東京
11	株式会社マリモ		全国1
12	株式会社キタムラ		首都圏
13	東京エムケイ株式会社		首都圏
14	株式会社ナイスク		首都圏
15	日本たばこ産業株式会社		首都圏
16	三井住友銀行株式会社		首都圏

【プロジェクトⅡ】 企業とのマッチング実践

1) 計 画

アスリートを対象としたキャリアセミナーを開催し、参加者の中からキャリア相談希望者を募る。アスリートに寄り添いアスリートキャリアコーディネーターがコンサルティングから企業とのマッチングまでを支援する一連の流れを実践する場を設定する。

- ・アスリートキャリアチャレンジセミナー（仮称）
引退を考えている、キャリアチェンジを考えているアスリート対象
- ・キャリア相談希望者募集
- ・ACCによるコンサルティング
- ・アクションプラン策定
- ・キャリアトランスフォーメーションの実現

2) 実 績

アスリートライフキャリアデザインプログラムとして実施。
希望者は少なかったものの4名のアスリートがステップ2を希望し、適性検査の受検およびACCの面談を実施した。

ステップ2への参加アスリート)

- ・バドミントンコーチ（男性）
- ・パラバドミントン現役選手（男性）
- ・パラ水泳現役選手（女性）
- ・フィールドホッケー現役選手（女性）

	アスリート面談①	アスリート面談②	アスリート面談③	アスリート面談④
	セッション1	セッション1	セッション1	セッション1
日にち	2月9日	2月11日	2月11日	3月4日
実施時間	9:30-10:00 事前打合せ 10:00-11:00 面談実施	9:30-10:00 事前打合せ 10:00-11:00 面談実施	14:00-14:30 事前打合せ 14:30-15:30 面談実施	13:30-14:00 事前打合せ 14:00-15:00 面談実施
対象者	バドミントン (引退：コーチ)	パラアスリート (現役バドミントン)	パラアスリート (現役水泳)	フィールドホッケー (現役)
		アスリート面談②		
		セッション2		
		3月2日		
		13:30-14:30 面談実施		
		パラアスリート (現役バドミントン)		

面談実施にあたり原則としてACC2名体制とした。

キャリアコンサルタントの国家資格を有するACCとアスリートの現場に近い人材でベーシックプログラム、アドバンスドプログラムを受講してACCとなった人材とでは、当然ではあるが面談時のスキル面では大きな差がある。一方でアスリートのおかれている環境やアスリート特有の心理面の課題については現場に近いACCのほうが理解度が高い。

来期以降本格的にアスリートとACCの面談機会を創出するにあたっては、アスリートのキャリア相談のレベル、内容に応じてどうやって適したACCをマッチングしていくかもテーマの一つとなる。ACCの提供価値については、実践の場を通じてあらためて定義、言語化する必要があるものと思われる。

【プロジェクトⅢ】 アワードの創設

1) 計 画

会員団体・企業の情報共有、成功パターンのナレッジ共有を目的としてアワードを創設する。昨年度同様に3月に開催を予定しているカンファレンスを表彰の場として活用し、広く発信するとともに会員拡大のトリガーとする。表彰部門等については、運営委員会で検討・決定する。

2) 実 績

アワードの創設までには至らなかったが、ACCの認定課題の提出者の中から異なるバックグラウンドの人材を4名選出し、カンファレンスへ登壇、発表という形を実現することができた。

- ・大窪 航平 氏（住友商事株式会社）
- ・小林 賢太郎 氏（静岡県インラインスケート協会 理事）
- ・田沼 泰輔 氏（公益社団法人全国障害者雇用事業所協会 理事/事業構想大学院特任教授）
- ・白鳥 歩 氏（株式会社パソナグループアスリートコーチ／日本体育大学バレーボール部ビーチバレーボールコーチ／ビーチバレーボール 日本オリンピック委員会強化スタッフ）

各人の取り組みについてはスポーツ庁の下記 YouTube チャンネルの動画をご参照いただきたい。

URL youtu.be/mjadR9-ooGs

(ACCの4名の発表該当部分 2時間25分20分秒～3時間02分55秒部分の約38分間程度)

(4) 情報発信コンテンツの充実

1) 計 画

ロールモデルのコンテンツ化を定期的に行う。

⇒年間で50名程度のコンテンツ作成を目標とする。

SNS等を活用し、アスリートや会員企業が自立的にコンテンツをUPできる企画等を検討する。

本年度新設するアワード等の表彰結果についても積極的に広報コンテンツとして活用していく。

2) 実 績

ロールモデルコンテンツについて本年度は6名の取材、コンテンツ化にとどまった。

東京オリンピックの開催などもあり、取材対象者のスケジュール調整が難航したこと、制作体制がうまく構築できず、取材後のコンテンツ制作フローが滞ったことなどからコンテンツ化は6名となった。

- ・寺尾 悟 氏 (ショートトラックスピードスケート 元オリンピック)
- ・長良 将司 氏 (フェンシング・サーブル 元オリンピック)
- ・早川 寛 氏 (サッカー 元プロサッカー選手)
- ・緒方 亜香里 氏 (柔道 元オリンピック)
- ・谷川 烈 氏 (サッカー 元Jリーガー)
- ・乾 絵美 氏 (ソフトボール 元オリンピック) (*取材完了)

本年度はSCSCFacebookを活用した情報発信、カンファレンスの集客などにも積極的に取り組んだ。

特にアスリートセッションに登壇いただいた4名については、アスリートのロールモデルとしてSNS等でも積極的に広報を行った。カンファレンスの集客にも一定の効果が認められた。

参考資料6) ー2 カンファレンス運営業務報告書 P40 参照)

SCSC Facebook ページ 投稿コンテンツ

《集計日：令和4年3月18日 11:00 時点》

No.	内容 (タイトル)	更新日	リチ数	エンゲージメント	
				投稿 クリック数	リアクション、コ メント、シェア
1	令和3年度スポーツキャリアサポートコンソーシアム始動！！	令和3.8.24	547	14	18
2	ACC 育成プログラムベーシック第1期 受講者募集①	令和3.8.24	414	167	247

3	ACC 育成プログラムベーシック第 1 期 受講者募集②	令和 3.8.27	1,892	36	82
4	ACC 育成プログラムベーシック第 1 期スタート	令和 3.10.5	1,882	58	156
5	ACC 育成プログラムベーシック第 1 期終了	令和 3.10.20	675	12	77
6	ACC 育成プログラムベーシック第 2 期スタート	令和 3.11.2	654	20	78
7	ライフキャリアデザインセミナー参加アスリート募集	令和 3.11.17	3,897	190	213
8	アスリート理解プログラム 2 期 実施	令和 3.11.24	1,041	32	114
9	ライフキャリアデザインセミナー参加者募集	令和 3.11.25	3,708	190	507
10	アスリート理解プログラム 2 期実施 & ライフキャリアデザインセミナー募集	令和 3.11.26	759	46	90
11	ACC 育成アドバンスプログラムスタート	令和 3.11.30	2,041	71	146
12	ACC 育成アドバンスプログラム終了	令和 3.12.20	1,286	92	121
13	ライフキャリアデザインセミナー実施	令和 3.12.23	1,728	39	121
14	キャリアデザインコース参加者募集	令和 3.12.23	3,010	146	340
15	ACC 認定ロゴ決定	令和 3.12.27	1,458	20	103
16	インターンシップ参加アスリート募集	令和 3.12.28	3,245	135	330
17	カンファレンス 2022 告知①	令和 4.2.15	4,785	201	477
18	カンファレンス 2022 告知②	令和 4.2.17	1,825	95	256
19	カンファレンス 2022 告知③	令和 4.2.21	20,843	1,055	1,932
20	カンファレンス 2022 五郎丸氏	令和 4.2.24	5,398	82	95
21	カンファレンス 2022 小野氏	令和 4.2.25	3,050	35	58
22	カンファレンス 2022 久古氏	令和 4.2.28	2,685	82	33
23	カンファレンス 2022 中西氏	令和 4.3.1	4,127	193	91
24	カンファレンス 2022 外池氏	令和 4.3.2	2,973	44	30
25	カンファレンス 2022 当日①(開始前告知)	令和 4.3.12	3,213	68	185
26	カンファレンス 2022 当日②(開始前告知)	令和 4.3.12	350	6	19
27	カンファレンス 2022 当日③ (始まりました！)	令和 4.3.12	261	2	6
28	カンファレンス 2022 終了報告	令和 4.3.12	3,173	87	324
29	カンファレンス 2022 終了後リリース・アーカイブ案内	令和 4.3.12	432	30	22

リーチ数 … ページのコンテンツを見たユーザー数 (画面に表示された数)

エンゲージメント … 投稿に対するユーザーの反応の指標のこと。投稿をクリックした数とリアクション (投稿へのいいね)、コメント、シェアした数

SCSC の公式 Twitter も 8 月に開設、11 月よりコンテンツ投稿をスタートした。

さらに前述の通り ACC 受講者限定のコミュニティ (Teamlancer) をつくることによって会員間の自主的な活動、情報発信、交換が行われる土壌ができた。

(5) 今後に向けた検討

◆組織体制の検討

1) 計 画

計画的な活動を安定的に行うため任意団体から一般社団法人または NPO などの法人化を検討

2) 実 績

運営委員会において組織の位置づけ、法人化等について検討をおこなった。

下記財務面での課題と共通するテーマではあるが、組織運営のための財源をどこに求めるか、具体策については継続検討となった。

◆財務面での検討

1) 計 画

SCSC が将来自走するための財源として企業寄付をベースに外部資金の活用を検討

2) 実 績

第 2 回運営委員会において外部資金を受け入れるための会則改定を行い、SCSC としての銀行口座の開設を行った。

- ・三井住友銀行 新宿支店 普通口座 5093049
名義 スポーツキャリアサポートコンソーシアム (会長 高橋 義雄)

また、企業からの寄附を募り、au じぶん銀行様より寄附をいただくことが決定。

au じぶん銀行	寄付金額	120 万円 (1 月 31 日入金確認済)
----------	------	------------------------

今後広く企業等からの寄附、スポンサードを受けるためのメニュー開発を行い安定的な運営資金調達ルートの一つと位置付けたい。

◆役割についての検討

1) 計 画

SCSC はアスリートのデュアルキャリア期（後期）からビジネス期へのキャリア移行期を中心にアスリートのサポートを行うプラットフォームとしてのポジションを確立する。

本年度 SCSC キャリアセンター（仮称）を設置し、フィジビリティスタディを行う。

2) 実績

Athlete Career Challenge カンファレンス 2022 においてキャリアセンターの設置方針を発表するところまでの合意形成を行うことができた。来年度以降、キャリアセンターとして運用に乗せ、スポーツ界に定着させていくことが大きな課題となる。

また、SCSC の役割として下記の方向性を確認した。

1) キャリアサポートとしての機能

- ・競技、団体横断のキャリアセンター機能／相談窓口常設
- ・アスリートキャリアコーディネーターの継続育成と配置
- ・ビジネスパーソンとしてのトレーニング機能／コンテンツの提供

2) デュアルキャリア教育の推進

- ・各競技団体・統括団体が主催するアスリート向けキャリア教育のサポート
- ・アスリート向けキャリア教育プログラムの最新研究／開発
- ・指導者・保護者向けキャリア教育プログラムの開発

III. Athlete Career Challenge カンファレンス 2022 の開催

スポーツ庁委託事業「令和3年度スポーツキャリアサポート支援事業」の一環として、SCSC が主催し、「Athlete Career Challenge カンファレンス 2022 アスリートのCX（キャリアトランスフォーメーション）への挑戦が切り拓く未来 ～アスリートが社会全体の活性化の推進者として活躍する社会～」を開催した。スポーツ庁委託事業としての「Athlete Career Challenge カンファレンス」は、昨年度に引き続き第3回目の開催となる。

1. カンファレンスの概要

○開催主旨 ※実施要項より

スポーツキャリアサポートコンソーシアムは、2017年2月にスポーツ庁委託事業の一環として、アスリートのキャリア形成を支援する体制を整備することを目指して創設されました。本コンソーシアムでは、アスリートがスポーツで培った能力を発揮し、競技外のキャリアにおいて活躍することは、アスリート自身の人生の充実という点のみならず、アスリートが持つ価値を社会に還元するという点においても重要であり、アスリートの競技外での活躍は、スポーツの価値を高め、スポーツ参画人口の拡大、ひいては競技力の向上に資すると考えています。

本カンファレンスは、SCSC の運営を通じて培った知見を、現役アスリートやアスリートを支援する指導者、企業、団体等に広く発信し、アスリートのキャリア形成を支援するネットワークの拡大を図ることを目的としています。

○運営

ZOOM ミーティングによる参加およびスポーツ庁公式 YouTube にてライブ配信
ユニバーサル対応のため YouTube 配信には手話通訳を導入

○プログラム概要

【プレス発表】

スポーツキャリアサポート支援事業について

<登壇者>

- ・室伏 広治 氏 (スポーツ庁長官)
- ・高橋 義雄 氏 (スポーツキャリアサポートコンソーシアム会長/筑波大学体育系准教授)
- ・久木留 毅 氏 (スポーツキャリアサポートコンソーシアム副会長/独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター長)
- ・星野 一朗 氏 (スポーツキャリアサポートコンソーシアム副会長/公益財団法人日本オリンピック委員会専務理事)
- ・藤原 正樹 氏 (スポーツキャリアサポートコンソーシアム副会長/公益財団法人日本パラスポーツ協会常務理事)

【トークセッションⅠ】

「アスリートが語るライフキャリアデザインの課題と提言」

<登壇者>

- ・五郎丸 歩 氏 (静岡ブルーレヴズ株式会社クラブ・リレーションズ・オフィサー(CRO)
元ラグビー日本代表)
- ・外池 大亮 氏 (株式会社スカパー・ブロードキャスティング 兼
早稲田大学ア式蹴球部監督 元Jリーガー)
- ・久古 健太郎 氏 (デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 元プロ野球)
- ・小野 真由美 氏 (SOMPOケア株式会社 東京ヴェルディホッケーチーム 監督
元女子ホッケー日本代表)
- ・中西 麻耶 氏 (株式会社阪急交通社所属アスリート 現役パラ陸上選手)

【トークセッションⅡ】

「社会・企業で求められる人材とアスリート人材の可能性」

<モデレーター>

- ・田中 研之輔 氏 (法政大学キャリアデザイン学部教授/
一般社団法人プロティアン・キャリア協会 代表理事)

<登壇者>

- ・源田 泰之 氏 (ソフトバンク株式会社 コーポレート統括 人事本部 本部長)
- ・松田 敏之 氏 (両備ホールディングス株式会社 代表取締役社長)
- ・丸山 武志 氏 (彦根市特別顧問、米原市シティマネージャー (所属:株式会社日本総合研究所))
- ・高橋 竜太 氏 (S.H.N 株式会社 代表取締役社長)

【トークセッションⅢ】

「アスリートキャリアコーディネーターが語る 課題とアクションプラン」

<モデレーター>

- ・田中 研之輔 氏 (所属 同上)

<登壇者>

- ・大窪 航平 氏 (住友商事株式会社)
- ・小林 賢太郎 氏 (静岡県インラインスケート協会 理事)
- ・田沼 泰輔 氏 (公益社団法人全国障害者雇用事業所協会 理事/事業構想大学院特任教授)
- ・白鳥 歩 氏 (株式会社パソナグループアスリートコーチ/日本体育大学バレーボール部ビーチバレーボールコーチ/ビーチバレーボール 日本オリンピック委員会強化スタッフ)

スポーツ庁委託事業「令和3年度スポーツキャリアサポート支援事業」

Athlete Career Challenge カンファレンス 2022

アスリートのCX (キャリアトランスフォーメーション)への挑戦が切り拓く未来
～アスリートが社会全体の活性化の推進者として活躍する社会へ～

開催方法: オンラインでの実施となります。手話通訳あり。
2022年3月12日 [土] 13:00~16:00 参加費: 無料
令和4年 180分

参加方法 下記のサイトよりお申し込みください。
URL: <https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/02kgqk9621.html>

プレス発表
スポーツキャリアサポート支援事業について
今後のスポーツキャリアサポートコンソーシアムの方針について発表いたします。

登壇者

久木留 毅 氏
スポーツキャリアサポートコンソーシアム事務局
独立行政法人日本スポーツ振興センター
PFAのキャリアデザインセンター
国立スポーツ科学センター長

星野 一朗 氏
スポーツキャリアサポートコンソーシアム副議長
公益財団法人日本体育大学
公益財団法人日本体育大学附属機関
准教授

藤原 正樹 氏
スポーツキャリアサポートコンソーシアム副議長
公益財団法人日本体育大学附属機関
准教授

登壇者

5郎丸 歩 氏
プロ野球選手
読売ジャイアンツ

久古 健太郎 氏
プロ野球選手
読売ジャイアンツ

小野 真由美 氏
元プロ野球選手
読売ジャイアンツ

中西 麻耶 氏
元プロ野球選手
読売ジャイアンツ

外池 大亮 氏
元プロ野球選手
読売ジャイアンツ

トークセッション
アスリートが語るライフキャリアデザインの課題と提言

登壇者

源田 泰之 氏
ソフトバンク株式会社
コーポレート統括
人事本部 本部長

松田 敏之 氏
両備ホールディングス株式会社
代表取締役社長

丸山 武志 氏
彦根市特別顧問
米原市シティマネージャー
所属:株式会社日本総合研究所

高橋 竜太 氏
S.H.N 株式会社
代表取締役社長

田中 研之輔 氏
法政大学キャリアデザイン学部
教授、一般社団法人アスリート
キャリア協会 代表理事

トークセッション
社会・企業で求められる人材とアスリート人材の可能性

登壇者

源田 泰之 氏
ソフトバンク株式会社
コーポレート統括
人事本部 本部長

松田 敏之 氏
両備ホールディングス株式会社
代表取締役社長

丸山 武志 氏
彦根市特別顧問
米原市シティマネージャー
所属:株式会社日本総合研究所

高橋 竜太 氏
S.H.N 株式会社
代表取締役社長

田中 研之輔 氏
法政大学キャリアデザイン学部
教授、一般社団法人アスリート
キャリア協会 代表理事

トークセッション
アスリートキャリアコーディネーターが語る課題とアクションプラン

登壇者

大窪 航平 氏
住友商事株式会社

小林 賢太郎 氏
静岡県インライン
スケート協会 理事

田沼 泰輔 氏
公益社団法人全国障害者
雇用事業所協会 理事
事業構想大学院大学
特任教授

白鳥 歩 氏
株式会社パソナグループ
アスリートコーチ
日本体育大学バレーボール部
ビーチバレーボールコーチ

SPORT CAREER SUPPORT
スポーツキャリアサポートコンソーシアム (SCSC) とは
2017年2月にスポーツ庁委託事業の一環として、アスリートのキャリア形成を支援する体制を構築することを目的として創設され、現在、産官学連携組織として61団体が加盟しています(2022年1月現在)。SCSCは、スポーツ界、経済界、教育界などの関係・法人・個人が参加し、「協働と共創」を理念に運営されています。

3/12 [土] 13:00-16:00 (180分)

13:00 プレス発表「スポーツキャリアサポート支援事業について」

13:30 トークセッション1「アスリートが語るライフキャリアデザインの課題と提言」

14:35 トークセッション2「社会・企業で求められる人材とアスリート人材の可能性」

15:15 トークセッション3「アスリートキャリアコーディネーターが語る 課題とアクションプラン」

スポーツ庁 JAPAN SPORTS AGENCY

SPORT CAREER SUPPORT
スポーツキャリアサポートコンソーシアム事務局
E-mail: sportcareer@futuredesignlab.jp TEL: 03-6222-8855

※事務局の運営は、スポーツ庁委託事業「スポーツキャリアサポートコンソーシアム」によるものです。

主催: スポーツキャリアサポートコンソーシアム (SCSC) 協賛事業: 株式会社フューチャー・デザイン・ラボ
運営: 株式会社MPandC

※参考資料6) - 1 カンファレンスチラシ

2. 集客状況および満足度

詳細については、参考資料6) -2 カンファレンス運営業務報告書 参照

概 要		
事前申込者	ZOOM	YouTube
	387名	338名
当日視聴者	373名	191名
アーカイブ視聴数	****	1616回 (3/22時点)
アンケート回収数	222名	
メディア参加者数	8社 (現地1社・オンラインプレス7社)	
WEB ニュースクリッピング	30社	

本年度、カンファレンスは、現役のアスリートにキャリアについて考える機会をもってもらうことを狙い、集客のメイン目標を現役アスリートに置いて集客目標を設定した。

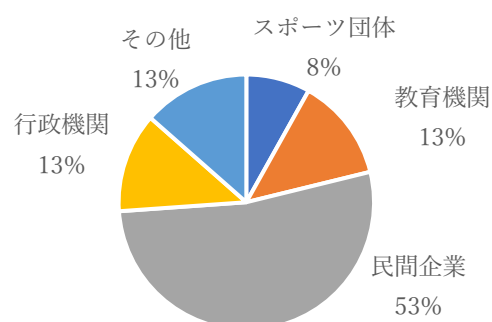
トータルの人数としては、目標値を上回ることができたが、現役アスリート自体の集客は未達に終わった。

3月の中旬というスポーツ活動が盛んになるタイミングでの土曜日午後開催という日程の問題も考えられるが、キャリア問題を直接的にアスリートに訴求する難しさも改めて浮き彫りとなった。

区分	目標	結果
現役アスリート	100名	23名
指導者	50名	52名
NF・競技団体・チーム関係者	20名	103名
企業	30名	145名

アンケート回答者の属性

所属	人数 (人)
スポーツ団体	18
教育機関	29
民間企業	117
行政機関	28
その他	30
回答者 合計	222

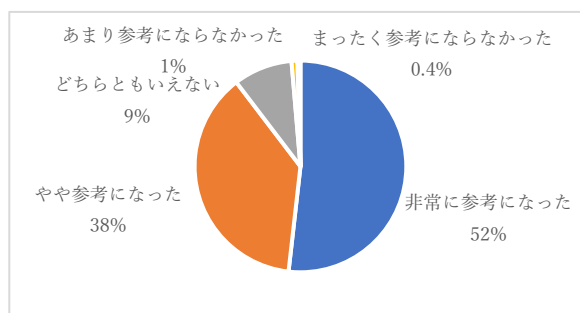


パート別満足度（アンケート結果より）

全てのパートで「非常に参考になった」「やや参考になった」の合計は90%を上回る結果となった。中でもアスリートが登壇したトークセッションⅠは95%と高い満足度となっている。アンケート回答者の属性が民間企業が多いことからアスリート自身からキャリアについての課題感、解決の方向性の話を聞くこと自体が貴重な場であったとも考えられる。

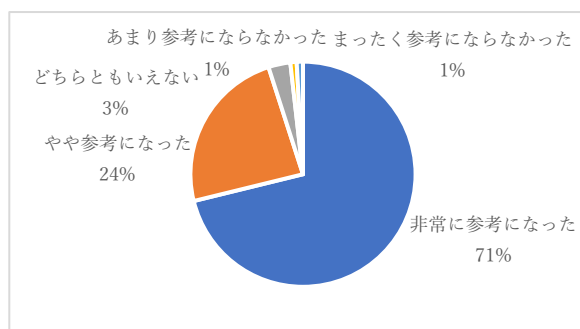
【プレス発表】

スポーツキャリアサポート支援事業について



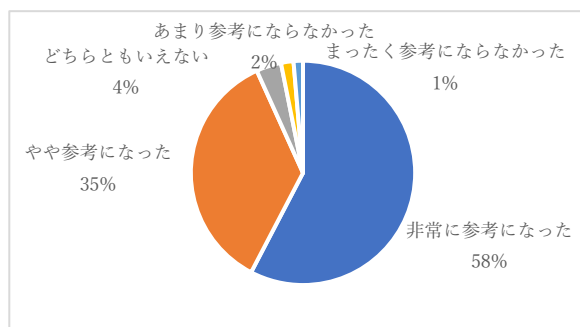
【トークセッションⅠ】

アスリートが語るライフキャリアデザインの課題と提言



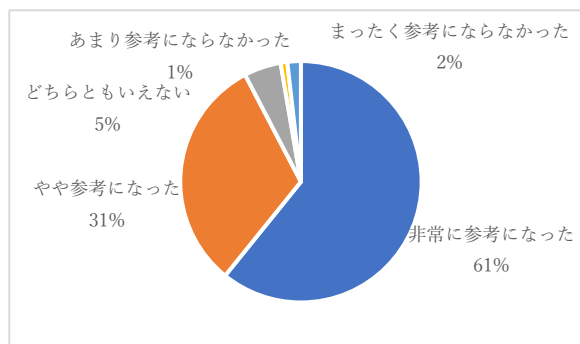
【トークセッションⅡ】

社会・企業で求められる人材とアスリート人材の可能性



【トークセッションⅢ】

アスリートキャリアコーディネーターが語る課題とアクションプラン



3. カンファレンスのまとめと今後の課題

(1) 本カンファレンスの実施目的とその検証

本カンファレンスは、以下の3点を開催の目的として掲げ、運営委員会にて企画が構想・承認された。

<実施目的>

- ①スポーツ庁「スポーツキャリアサポート支援事業」
並びにスポーツキャリアサポートコンソーシアムのコンセプトを発信
- ②育成したアスリートキャリアコーディネーターの主旨と今後の展望について発信
- ③アスリートの人材価値を社会に広く発信

本年度は、SCSCの方針発表および3つのトークセッションでカンファレンスを構成した。3時間という限られた時間に多くを盛り込み過ぎたことで各セッションでの議論が中途半端に終わるとの危惧もあったが、アンケート結果等からある程度の価値提供はできたものとする。特にアスリートのトークセッションでアスリート自身が語ったキャリア形成における下記の課題と解決に向けた提言については、しっかりと受け止め今後の具体的な活動へとつなげていく必要がある。

課題)

- ・競技以外に対する関心の狭さ、近視眼的キャリア観
- ・早い段階でライフキャリアという考えに触れていない
- ・競技に閉じた人的なネットワークになりがち
- ・競技で培った経験が他の世界で通用することを理解していない
- ・経験の言語化ができない

提言)

- ・地域、社会に開かれた環境をつくること
- ・競技の枠に閉ざさない
- ・指導者像の革新
- ・中高生からの意識醸成

また、開催方法としては ZOOM ミーティングによる参加と YouTube によるライブ配信の形をとった。ZOOM ミーティングの形式は、参加者自身もカメラをオンにすることができるためカンファレンス参加のコミットメントが高いこと、ACC 認定者の申込が多かったこともあり、申込状況からみると非常に高い参加率となった。運営面でも参加者一覧（ギャラリービュー）の画面を会場スクリーンモニターに映し出すなどインタラクティブ性を高めることができた。

一方で YouTube チャンネルの視聴数は、ライブでの視聴数を大きく伸ばすことはできなかった。また、参加者の属性的には現役アスリートの集客面で課題を残した。3月中旬というスポーツ活動が盛んになる時期に開催していることも影響している可能性はあるが、アスリート自身にキャリアをテーマとした直接的なアプローチの難しさを感じる。協会、チーム、監督、コーチ等を介した展開を考える必要がある。

一方で実施後アンケートにおいて SCSC へ加盟希望、関心の有無について聞いたところ 40 を超える加入希望、関心ありの回答を得ることができたことなどは、大きな収穫といえる。

今後の認知拡大、加入団体数の拡大につなげていきたい。

IV. まとめ

本年度は、スポーツキャリアサポートコンソーシアム（SCSC）の役割、組織体制についての議論を進め、来期には SCSC キャリアセンターとしての機能提供を開始する発表を行うなど提供価値を明確化することができた。

そのうえで今後の課題としては、SCSC の認知を高め、競技団体の加入促進を引き続き進めることが第一と考える。競技横断の機能として多くの競技団体と協力関係を築くことが第一義的に必要となる。

また、競技団体のみならず社会・企業とのハブとしての機能を提供するためにも企業等の会員拡大も積極的に進める必要がある。本年度実施した会員間の勉強会・情報共有の場としての SCSC サロンは、継続・拡大し加入団体向けのメリットとして訴求していく。

ACC の育成・活用について

育成面では、キャリアコンサルタント系人材とアスリート系人材の2つのセグメントからの育成を試みた。育成規模としては、当初目標値を大きく上回ることができたが、一方でアスリートキャリアコーディネーターの質については、継続的な育成が必要と考える。特にアスリート時代に培ったキャリア資産を「言語化」「翻訳」する役割については、体系的な研究も進め、アスリートキャリアコーディネーターの能力開発のテーマと位置付けたい。またキャリアコンサルタントとアスリートキャリアコーディネーターの役割の違いを定義する必要があるとも考えている。

来期に向けて競技の枠を超えたキャリアセンター機能の提供の方針を打ち出している。この体制を運用に乗せることが最大の課題となる。本年度 490 名を超える認定者を出したアスリートキャリアコーディネーターの人材資源を生かし、アスリートとのキャリア面談事例をどれだけ作りだせるか、またアスリートが自身の状況に応じて相談相手となるアスリートキャリアコーディネーターを簡易に選べるマッチングの仕組みづくりなども必要になると考えている。

一方で育成したアスリートキャリアコーディネーターの主体的、自主的な活動を共有できる仕組みづくりも大きなムーブメントを作っていく上では重要であるとする。

そのためにも ACC のゆるいネットワークのベースとなるコミュニティを継続運営していくことも必要である。

本年度のさまざまな活動を通してキャリアをテーマとしてアスリート自身への直接的なアプローチをすることの難しさをあらためて実感することとなった。前述の通りアスリートセッションでアスリート自身が課題として挙げているように

- ・ 競技以外に対する関心の狭さ、近視眼的キャリア観のアスリートが多いこと。
- ・ 早い段階でライフキャリアという考えに触れていないという現実があること。

この状況を改善するためには、協会、チーム、監督、コーチ等を介したアプローチを積極的に進める必要がある。

本年度検討の緒についた法人化についても継続検討課題となる。来年度からスタートするキャリアサポートセンター機能を継続的に切れ目なく提供するためにも運営体制の見直しが必要となる。安定した財源確保のためには企業からの寄附、スポンサードを得るためのメニュー開発はもちろんのこと、幅広い人たちに支持される、支援される企画づくりが求められる。

本年度のカンファレンスのテーマに掲げた

アスリートのCX（キャリアトランスフォーメーション）への挑戦が切り拓く未来

～ アスリートが社会全体の活性化の推進者として活躍する社会へ ～

本年度の活動が、アスリート人材が社会の活性化の推進者として活躍する社会の実現に向けた一助となることを願っている。

V. 事業実施体制

事業統括責任者

竹原 啓二

(株) フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長

ディレクター 兼 事業推進担当

曾我 隆之

(株) フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役社長

事業推進担当

藤原 健一

(株) フューチャー・デザイン・ラボ 取締役

アシスタント

岸野 菜つみ

(株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ

バンザラグチ・ズンビレグ

(株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ